

浄泉寺通信

第20号
年4回発行
浄土真宗本願寺派
吉見布教所浄泉寺
埼玉県比企郡吉見町
長谷1678-6
発行責任者 福井学誠

新しい年が始まりました。本年もよろしくお願いいたします。

武者小路実篤の戯曲『わしも知らな
い』は、お釈迦さまの説話を元に描か
れています。執筆は武者小路二十八歳
の大正三年、翌四年に文藝座により帝
劇で初演されています。お釈迦さまが
出られた釈迦族は、コーサラ国とマガ
ダ国という二つの強大な国に挟まれた
小さな、しかし誇り高い民族でした。

ある事をきっかけに、コーサラ国のピ
ルリ王が何としても釈迦族を壊滅させ
ようと企て、物語はお釈迦さまのお弟
子である目連尊者が、目の前で遊ぶ子
ども達のいのちを助けてもらうよう、
お釈迦さまに頼むところから始まりま
す。お釈迦さまは「わしだって助けた
い。しかし助けることができない。そ
れがこの世の運命なのだ」と言い、次
のように目連尊者を諭します。「すべ
てのことは過ぎてゆく。過ぎてゆく嵐
だ。過ぎてゆく洪水だ。過ぎてゆく戦
いだ。死屍はいくら山を築こうとも、
血はよし川の如く流れようとも、断末
魔の叫びは天地に響こうとも必ず過ぎ
てゆく。そうしてゆく先は海だ。涅槃
だ」。そして、言いようのない沈黙が
二人に流れた後、場面が変わりピルリ
王による、この世のものと思えない殺

戮が繰り広げ
られます。釈
迦族の大人は
いわずもがな
釈迦族の五百
人の男児は轆

き殺され、五百人の女兒は池に埋めら
れ、釈迦族はお釈迦さまお一人を残し
て絶えてしまうのです。なぜそこまで
してピルリ王は釈迦族を憎んだのか。

これは前段となる説話ですが、従属
する釈迦族からコーサラ国が妃を迎え
ようとしたところ、釈迦族では「わた
したちの民族は先祖以来誇り高い。な
ぜ卑しい民族に娘を嫁がせねばならな
いのか」とする意見があり、一計を案
じた大臣

が自らと
下女との
間に生まれた娘を「釈迦族の王族の娘」
と偽って嫁入りさせ、そして生まれた
のがピルリ王でした。ピルリ王八歳の
とき、弓術の修練を積もうと母の実家
である釈迦族の城へ行き、王族しか座
ることの許されない玉座にピルリ王子
が登ったところ、釈迦族の人々は驚き、
玉座から少年を引きずりおろし、鞭で
打ちました。「お前は下女の産んだ子
だ。玉座に坐るなどもっての外だ」と
口々に言うのが聞こえ、出自の真実を
知ったピルリ王子は少年ながら釈迦族
への復讐を胸に刻みました。

仏の顔も二度まで

成人したピルリ王子は父王の留守を
狙って王位を奪い、王となりました。
そしてさっそく釈迦族への復讐のため、
軍を進め、それを知ったお釈迦さまは
一本の枯れ木の下に坐って、ピルリ王
を待ちました。ピルリ王がお釈迦さま
を見て、「世尊よ、ほかに青々と茂っ
た木があるのに、なぜ枯れ木の下にお
坐りになっているのですか」と尋ねる
と、お釈迦さまは静かにこう答えまし
た。「王よ、親族の陰は涼しいもので
ある」。その答えを聞いた途端、これ
以上の進軍をあきらめ、ピルリ王はコー
サラ国へと戻っていききました。やがて
時が経ち、憎しみ冷めぬピルリ王は二
度目の進軍を決め、軍隊を進めました
が、またしても枯れ木の下に坐るお釈
迦さまに諭され、時が今でないことを
悟り、再び引き返しました。さらに時

が過ぎてピルリ
王は三度目の進
軍を謀りますが、
またしてもお釈迦さまに行く手を阻ま
れ、あえなく撤退しました。そして四
度目。お釈迦さまは宿縁の深さと事態
の止め難きを知り、枯れ木の下で待つ
ことをそれ以上なさいませんでした。
ピルリ王は釈迦族のカピラ城を攻め落
とし、残虐の限りを尽くして釈迦族を
壊滅させました。日本のことわざに
「仏の顔も三度まで」とあるのは、こ
の故事に依ります。

もう一度、武者小路の作品に戻りま
す。五百人の女兒を埋めた池に築かれ
た城で、戦に完勝し積年の恨みを晴ら
したピルリ王は連日宴を催していまし
たが、その城は建って七日目で焼け、
城にいる者全員が焼け死ぬという風評

がありました。期せずして七日目、風
評のなかで働き、ついに気が触れた女
が城に火をつけます。城の最上階にい
たピルリ王は下層がすべて炎に包まれ
ているのを見て自らの最後を悟り、籠
姫を殺し、臣下と胸をつらぬき合っ
て死にました。場面が変わって翌朝、う
ららかな朝日が差し込み、小鳥がさえ
ずっています。昨夜までのことは、恐
ろしい夢のようでもありません。お釈迦
さまが目連に語ります。「すべてのも
のは何事も無いような顔をしている。
そうして道ゆく人に逢えば多くの人は
何事も知らないような顔をしていよう。
カピラ城の滅亡もピルリ王の宮殿の焼
けたことも彼らはただ笑い話にすませ
てあろう。わしは彼らのためにそれを
喜ぶものだ。だがわしはわが教に従っ
てすべての人が調和して生きてゆくこ
とを望んでいる。そうしてそういう時
の来るのを夢想している」

目連「そういう時が参りましようか」
釈尊「くる」

目連「いつそういう時が参りましよう」
釈尊「それはわしも知らない」(終幕)
仏の顔も三度まで。それは仏様がわ
たしに、その人生を賭して呼びかけて
くださるご縁が、その人の生涯に三度
はあるのだという意味にも取れます。

わたしはこれまでに何度の仏縁に遇っ
たでしょう。残された人生で、あと何
度の仏縁に遇うでしょう。そしてその
仏縁を、わたしはありがたくいただい
て生きていくでしょうか。(住職)

昨年11月に京都の西本願寺へ一泊旅行へ行きました。親鸞聖人の墓所がある大谷本願へ納骨し、さらに法名を生前にいただく帰敬式(おかみそり)を皆さんと一緒に受けました。そのひつり、下写真の倉内さんは奥様の遺骨を納骨され、法名も受けられました。生前に法名を受けるといふは、縁起が悪いことなごいなく、むしろ西本願寺の御住職から直接いただけ、感動的で一生の思い出になるものです。



昨年7月、恒例の手盥盆会(お盆の法要)を築地本願寺(東京・中央区)で勤め、百二十一名の方々と共に、亡き人を偲ぶ静かな時間を持ちました。「遠方のお墓にお参りできず、こうして供養いただく助かります」という声を、毎回いただきます。誠にありがたいことです。本年は7月17日に予定しており、5月頃に往復乗書で出欠をお尋ねする予定です。



【浄泉寺の今後の活動】

- 1月1日(金)8時
元旦会(元旦の法要)
(浄泉寺本堂・埼玉県吉見町)
- ★お寺参りが嫌いでも、一年のはじまりに、おせちを食べるより先に、ご夫婦ご家族でお仏壇の前で手を合わせましょう。
- 1月15日(金)19時(毎月開催)
親鸞聖人御消息講座(第25回)
(フレサよしみ・埼玉県吉見町)
- 1月17日(日)9時30分
新年のつどい&コーラス練習
(浄泉寺本堂)
- 2月19日(金)19時
親鸞聖人御消息講座(第26回)
- 2月20日(土)9時
写経会(浄泉寺本堂)
- 3月18日(金)19時
親鸞聖人御消息講座(第27回)
(フレサよしみ)
- 3月21日(月)10時
彼岸会(浄泉寺本堂)

■ 1月17日(日)10時から「新年のつどい&コーラス練習」を開催します。午前9時30分から本堂で新年のおつとめをいたします。引き続き野外でお餅つき交流会ですが、屋外で火を熾して蒸して、臼で搗いて、形と味を調えるまで、時間のかかることです。寒さに充分備えた服装でお越しく



い。お子様がいらっしゃるご家庭は、是非お子様連れでどうぞ。お餅をお昼にいただいて、今回のつどいは子ども会を兼ねておりますため、午後はプロの腹話術師、しろたにまもるさんとゴローちゃんによるショーを少し

楽しんでいただいて、三曲ほどコーラスの練習初めをいたします。14時頃に終わる予定です。途中からのご参加、途中で帰るなど、ご自由にそれぞれのご都合に合わせて、お一人でも多くのご参加をお待ちしています。おもちの量を計算しますため、ご参加いただける方は、事前にご連絡ください。電話0493-54-8803(浄泉寺)